

2011年上半期の国際収支から

8月8日に平成23年上半期中国際収支状況(速報)が発表されたので、概略を紹介する。

1. 2011年上半期の経常収支の概要

経常収支の黒字が大幅減少

海外とのモノ、サービス、投資などの取引状況を総合的に示す経常収支は、5兆5,098億円の黒字(前年同期比▲3兆1,336億円減、同36.3%減)で、大幅に黒字が縮小した。

主要因としては、貿易・サービス収支が赤字に転じたことが挙げられる。

経常収支

(単位:億円)

項目	2010年上半期	2011年上半期 (P)	前年差
経常収支	86,434	55,098	-31,336
貿易・サービス収支	33,365	-11,377	-44,742
貿易収支	40,768	-5,011	-45,779
輸出	314,021	306,684	-7,337
輸入	273,253	311,695	38,442
サービス収支	-7,404	-6,367	1,037
所得収支	59,181	73,213	14,032
経常移転収支	-6,112	-6,738	-626

2. 主要項目別の動向

(1) 貿易・サービス収支: 4期ぶりに赤字に転化

貿易・サービス収支は、▲1兆1,377億円の赤字(前年同期比▲4兆4,742億円減)に転じた。

内訳の「サービス収支」の赤字幅は縮小したが、「貿易収支」が赤字に転じ、リーマン・ショックの影響を受けた2008年下半期と2009年上半期以来の赤字となり、現行統計で比較可能な1985年上半期以降で過去最大の赤字を記録した。

① 貿易収支: 初の赤字に転化

輸出から輸入を差し引いた貿易収支は、▲5,011億円の赤字(前年同期比▲4兆5,779億円減)に転じた。貿易収支は、現行統計で比較可能な1985年上半期以降で初の赤字となった。

輸出は、東日本大震災の影響を受けて3月以降

落ち込み、30兆6,684億円(前年同期比▲7,337億円減、同2.3%減)で減少に転じた。

一方、輸入は、31兆1,695億円(前年同期比3兆8,442億円増、同14.1%増)と増加した。

② サービス収支:

赤字は5期連続で減少し、過去最小

サービス収支は、▲6,367億円(前年同期比1,037億円増)と、赤字幅が縮小し、1985年上半期以降で過去最小の赤字となった。

サービス収支の内訳である「旅行収支」は原発事故の影響により訪日外国人客が減少し、赤字幅が拡大したが、「その他サービス収支」は特許使用料収入が増えて黒字幅が拡大し、サービス収支全体として赤字幅は縮小した。

サービス収支

(単位:億円)

項目	2010年上半期	2011年上半期 (P)	前年差
輸送	-3,223	-4,253	-1,030
旅行	-6,063	-7,069	-1,006
その他サービス	1,882	4,956	3,074
通信	-114	-71	43
建設	747	1,053	306
保険	-2,219	-1,931	288
金融	217	439	222
情報	-1,214	-1,218	-4
特許等使用料	3,868	5,281	1,413
その他営利業務	727	1,204	477
文化・興行	-409	-267	142
公的その他サービス	279	466	187
サービス収支	-7,404	-6,367	1,037

(2) 所得収支:

黒字幅は前年同期比で2期連続して拡大

証券投資に係る配当金の受取増加等により、所得収支は、7兆3,213億円の黒字(前年同期比1兆4,032億円増、同23.7%増)となった。

所得収支

(単位:億円、%)

項目	2011年上半期			
	受取	前年同期比	支払	前年同期比
雇用者報酬	87	0.0	102	3.0
投資収益	93,290	20.7	20,062	10.7
直接投資収益	23,921	41.3	3,257	35.7
証券投資収益	63,087	16.5	14,010	12.0
その他投資収益	6,283	0.9	2,795	-13.1
所得収支	93,377	20.6	20,164	10.6

(調査グループ 関谷裕介)